第2章　勉学態度

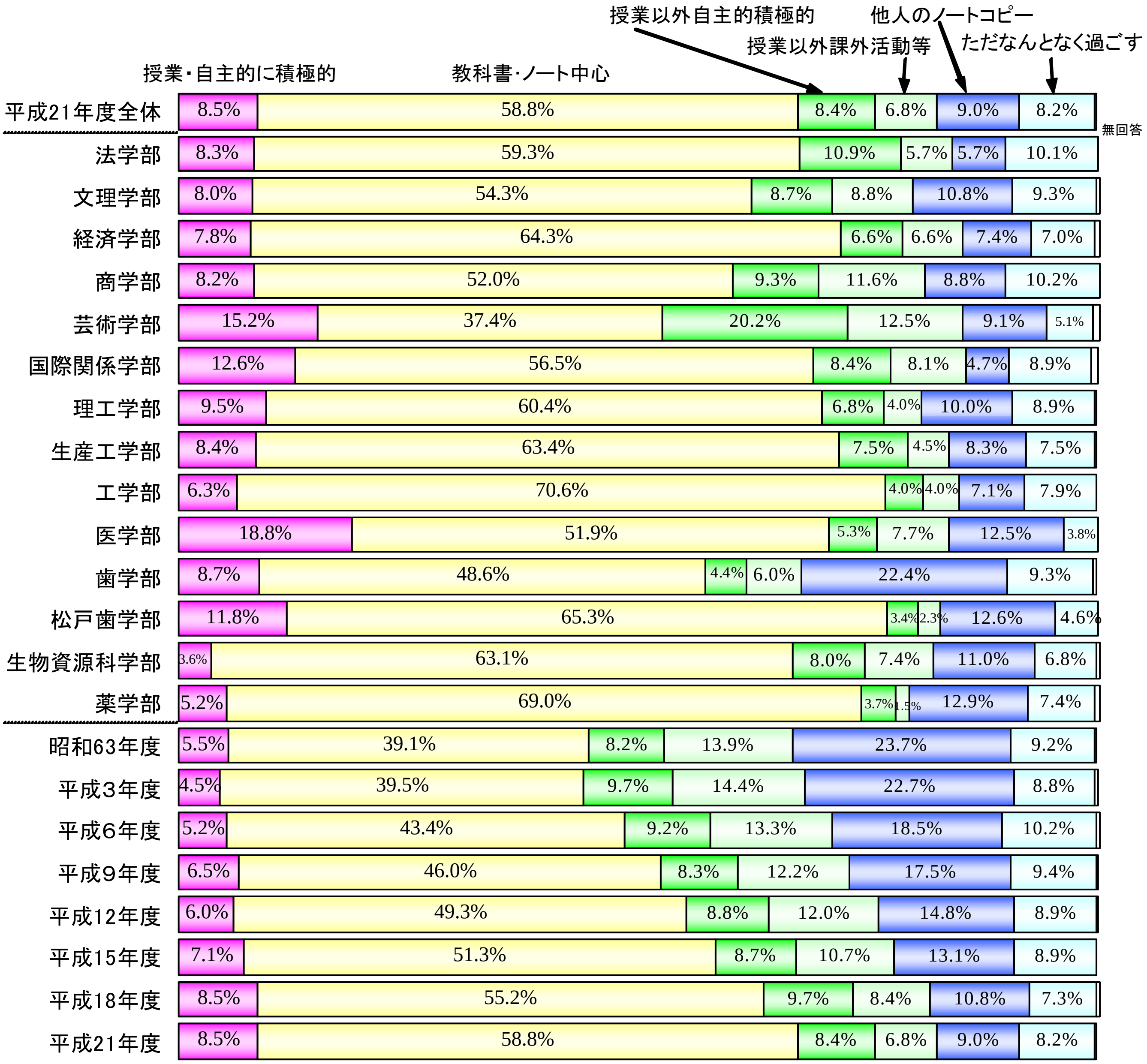
1.勉学態度

「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」が約６割。
カリキュラム重視で単位取得に取り組む学生の増加傾向が続く。

勉学態度を見ると，「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」するようにしている学生が全体の58.8％で，各学部ともこの勉学態度がトップとなっています。

医学部は「授業や自主的テーマで積極的に勉学」（18.8％），芸術学部は「授業より自分で積極的なテーマにとりくみ勉学」（20.2％），歯学部は「他人のノートのコピーで適当にすませている」（22.4％）が他の学部より比率が高くなっています。

経年変化を見ると，年々「教科書・ノート中心」が増加し，一方で「他人のノートのコピーで適当にすませている」が減少という傾向がみられ，カリキュラムに忠実に単位取得に取り組むといった勉学態度の学生が確実に増加していることがわかります。



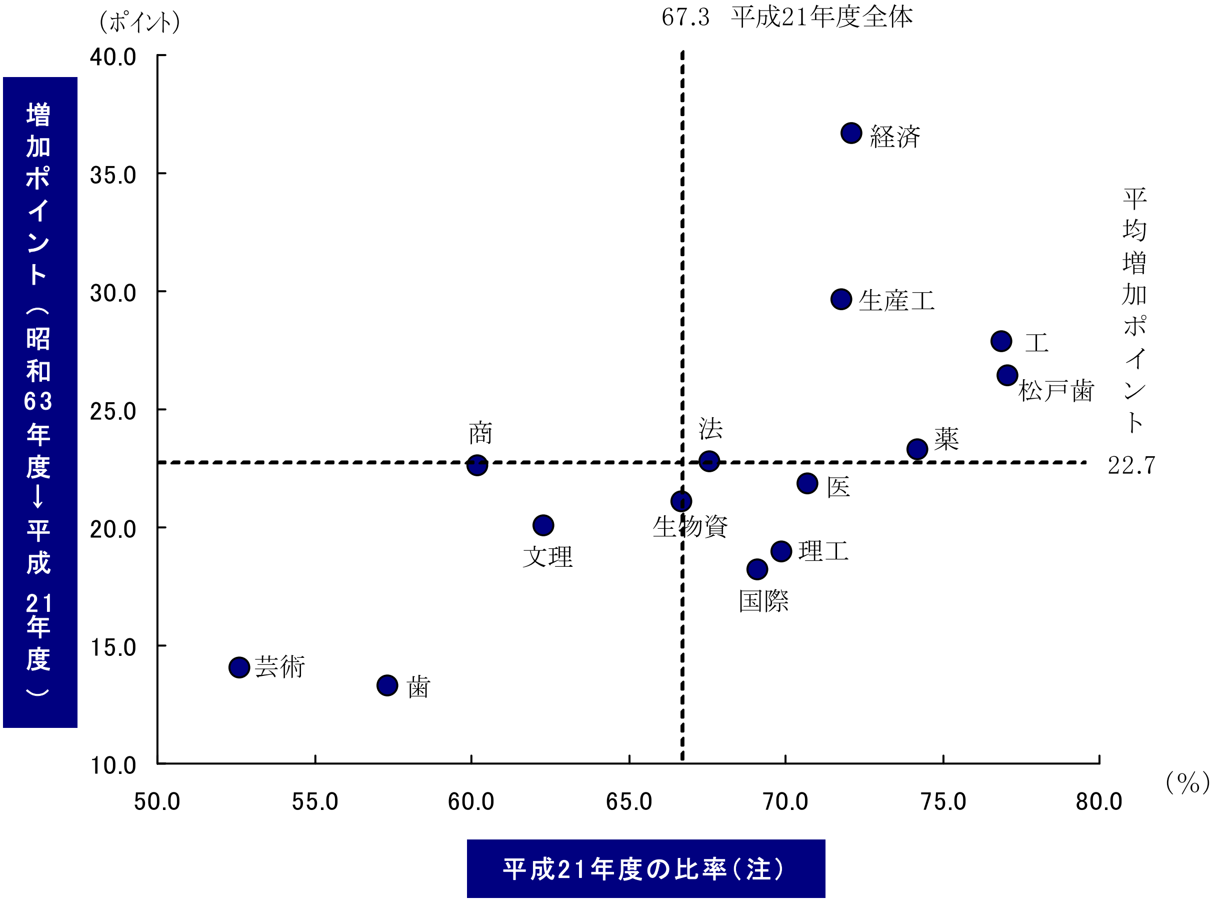
2.学部別 勉学態度の向上率

21年前に比べ，最も勉学態度が向上した学部は経済学部。次いで生産工学部。
今回医学部向上継続，歯学部低下。教育改革施行の成果の表われ？社会環境の影響？

「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」に「授業や自主的で積極的な勉学」を加えた比較的まじめな勉学態度が，第１回調査時（21年前の昭和63年度）に比べてどのくらい増加したのかを学部別に見たものが下図です。全ての学部で増加しており，勉学態度が向上していることがわかります。最も増加ポイントが高かった学部は経済学部でした。平成17年度の大幅なカリキュラム改訂が影響しているのかもしれません。

今回調査で比較的まじめな勉学態度の学生の比率が最も高かったのは松戸歯学部で，増加ポイントでも工学部に次いで４番目となっています。過去の調査では医学部・歯学部では「他人のノートのコピーを利用」する学生が多く，勉学態度の向上率が低いとされてきました。しかし，３年前の調査では両学部とも６年前よりまじめな勉学態度の大幅な向上が見られ，カリキュラム改正によるチュートリアル教育の実施による成果が表われているものと思われました。今回は，医学部が7.0ﾎﾟｲﾝﾄ増加しているのに対し，歯学部は8.2ﾎﾟｲﾝﾄ減少しています。医師不足の一方で歯科医の過剰といった社会環境の変化が学生のモチベーションに影響を与えているのかもしれません。

学部別，比較的まじめな勉学態度の向上率



（注）「授業や自主的で積極的な勉学」と
「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」の%の合計

3.学部別 勉学態度の経年変化

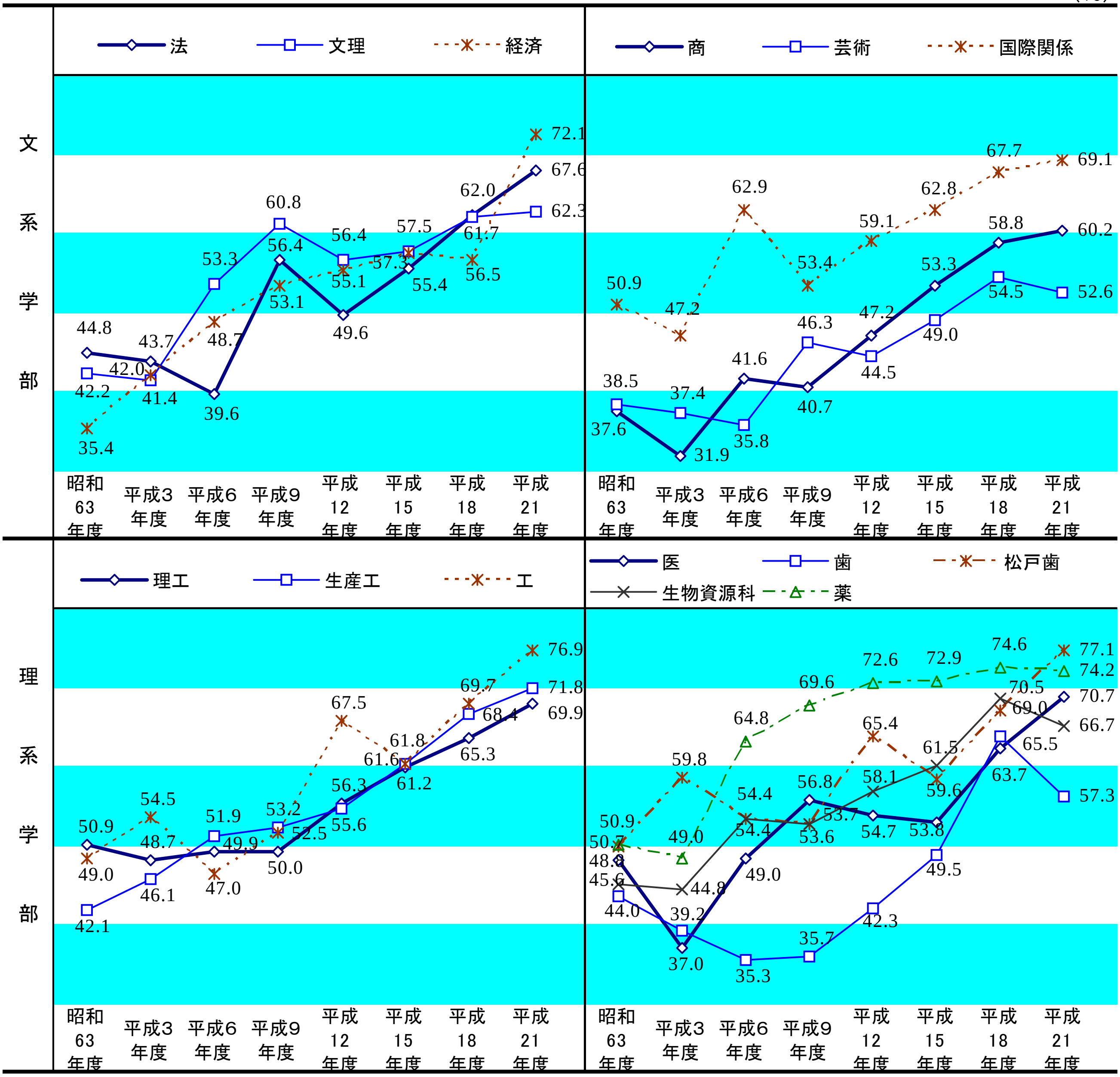
法学部は９年度，工学部は12年度，経済学部は21年度に勉学態度が急上昇。
各学部ともそれぞれの教育改革に対する取り組みが学生の勉学態度向上に影響大。

前ページで考察した勉学態度の向上率(「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」＋「授業や自主的で積極的な勉学」)の学部別経年変化を見たものが下図です。

各学部とも全体として右肩上がりの向上傾向を示していますが，学部により短期間に急上昇した時期があることがわかります。例えば法学部では平成６年度から平成９年度の３年間に39.6%から59.4%と16.8ﾎﾟｲﾝﾄ増，同様に国際関係学部と薬学部は平成６年度，工学部は平成12年度，経済学部は平成21年度にそれぞれ３年前より15ﾎﾟｲﾝﾄ以上増加しています。医学部では平成15年度から今回の６年間で16.9ﾎﾟｲﾝﾄ，商学部では平成３年度の31.9%から今回の18年間に28.3ﾎﾟｲﾝﾄ増と大幅な増加が見られます。各学部とも，教育改革の取り組みに伴って，学生の勉学態度が大きく向上していることがうかがえます。

学部別、比較的熱心な勉学態度の経年変化

（%）



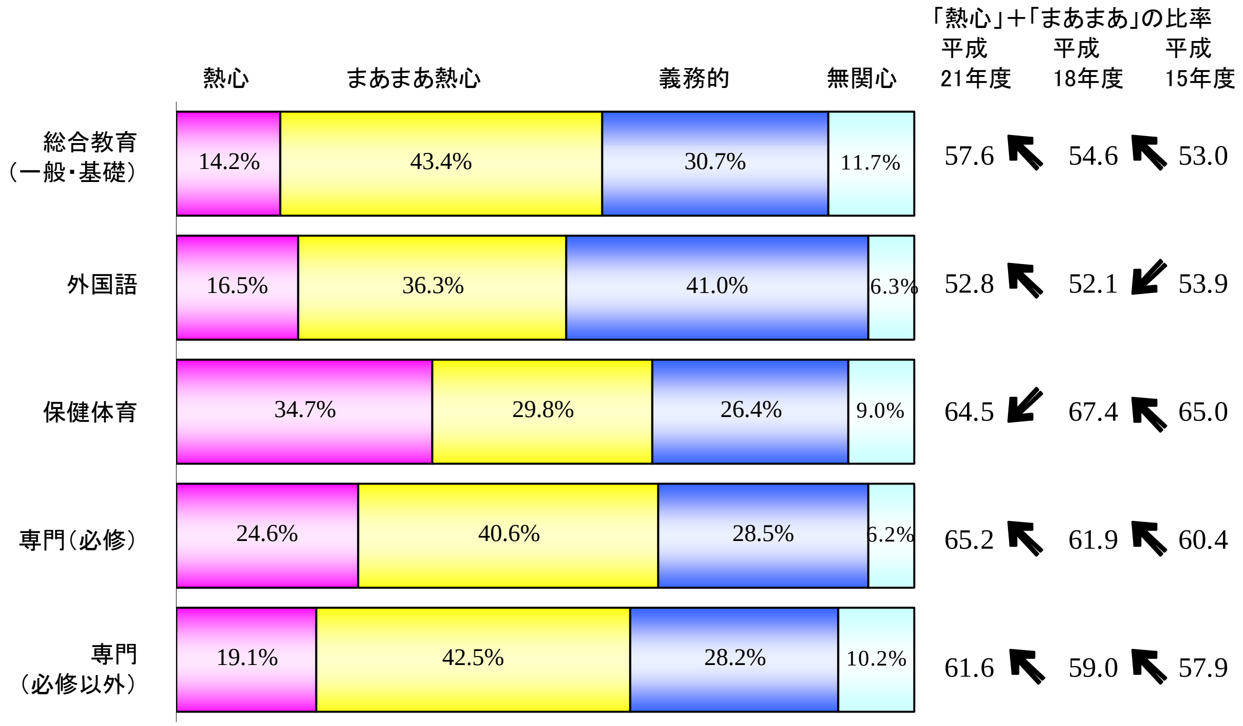
（注）「授業や自主的で積極的な勉学」と「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」の%の合計

4.授業態度

専門（必須）に熱心が６５.２％で最も高い。外国語は「義務的」が４割。
３年前に比べ，保健体育以外は全般的に熱心度がアップ。

総合教育（一般・基礎）科目の授業について日大生全体の授業態度を見ると，「授業に関心があり熱心だった」が14.2%，「まあまあ熱心に聞いていた」が43.4%となっており，両者を加えると57.6%の学生が熱心な態度で受けていると言えます。「試験が不安だから聞いていた」「出席をとるから義務感で出ていた」といった「義務的」態度の学生は30.7%，「ほとんど聞いていない」「他のことをやっている」など「無関心」層は11.7%でした。

「熱心」と「まあまあ」を加えた比率を見ると，専門科目の必須授業が65.2%で最も高く，次いで保健体育（64.5%），専門科目の必修以外の授業（61.6%）の順で高くなっています。外国語は「義務的」態度が41.0%と高くなっています。前回調査（平成18年度）と比較すると，保健体育以外は熱心の比率がアップしています。専門（必須）と総合教育の増加は約３ﾎﾟｲﾝﾄと高くなっています。

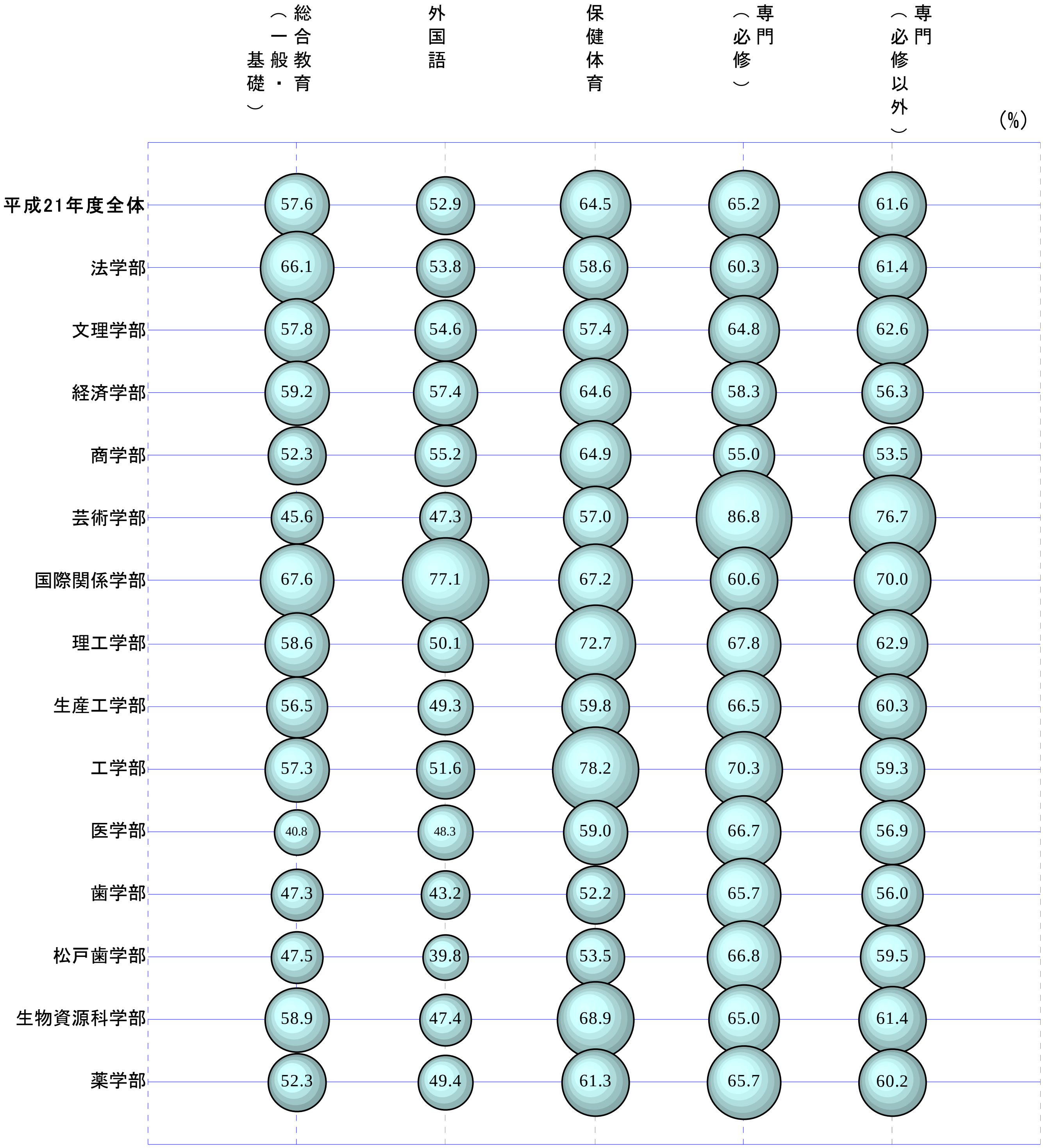


（注）「義務的」は「試験が不安」「出席とるから」の合計、「無関心」はそれ以外の合計

5.学部別 授業態度（熱心さ）

芸術学部では専門，国際関係学部では外国語，法学部では総合教育科目に熱心。
学部の特徴を反映？

授業態度について「熱心」と「まあまあ」を加えた比率を学部別に見ると，芸術学部では専門（必修）が86.8%，専門（必修以外）が76.7%と専門科目に対する熱心度が強い点が目立っています。また，国際関係学部では外国語が77.1%，専門（必須以外）が70.0%，工学部では保健体育と専門（必須）が70%以上と高くなっています。法学部では総合教育（一般･基礎）に熱心な学生の比率が最も高く，より幅広い知識を求めているように思われます。



6.空き時間に過ごす友達の数

空き時間に主に一人で過ごす学生が３人に１人。
キャンパスで一緒に過ごす学友の数の傾向に変化。

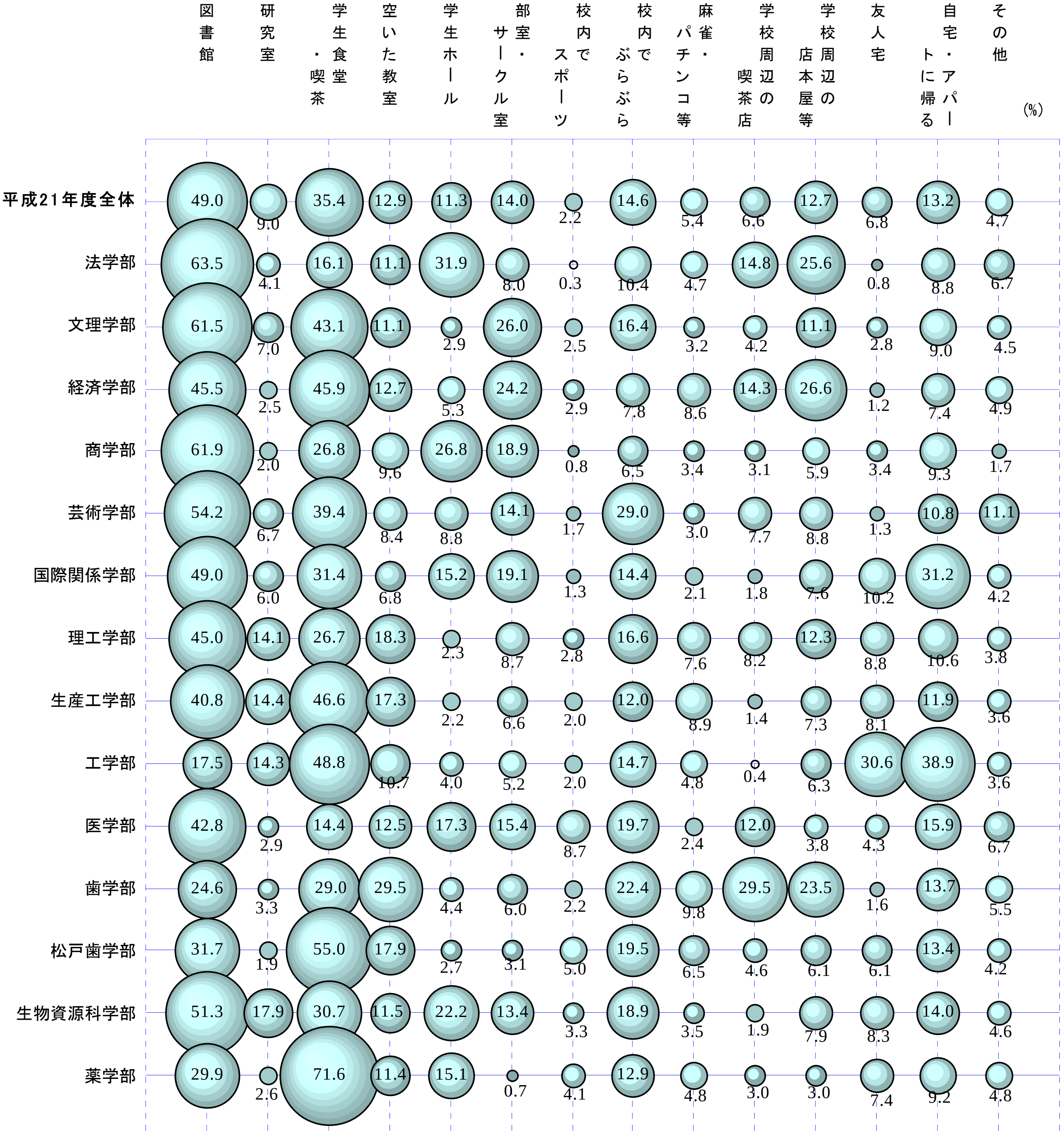
全体で見ると，学内で空き時間ができた時に主に一人で過ごす学生が35.0％となっています。友達と共に過ごすことの多い学生は64.1％で，「二人」が21.4％，「三人」が16.5％，「四人以上」が26.2％となっています。一人で過ごす学生の比率の高い学部は法学部（57.0％）と芸術学部（49.5％）です。薬学部では四人以上と多人数で過ごす学生が56.1％と高いといった特徴が見られます。３学部とも前回に比べてそれぞれの傾向が強まっています。

経年変化を見ると，一人で過ごす学生の比率は昭和63年度の17.3％から今回の35.0％まで毎回増加しています。一方，四人以上も毎回減少傾向にありましたが，今回は3.0ﾎﾟｲﾝﾄ増加に転じており，キャンパスで一緒に過ごす人数の傾向に若干変化が見られます。

7. 空き時間を過ごす場所

空き時間を過ごす場所のトップは「図書館」で，約半数の学生が利用。
図書館・学生食堂の設備が充実している学部で，その利用率が高い傾向。

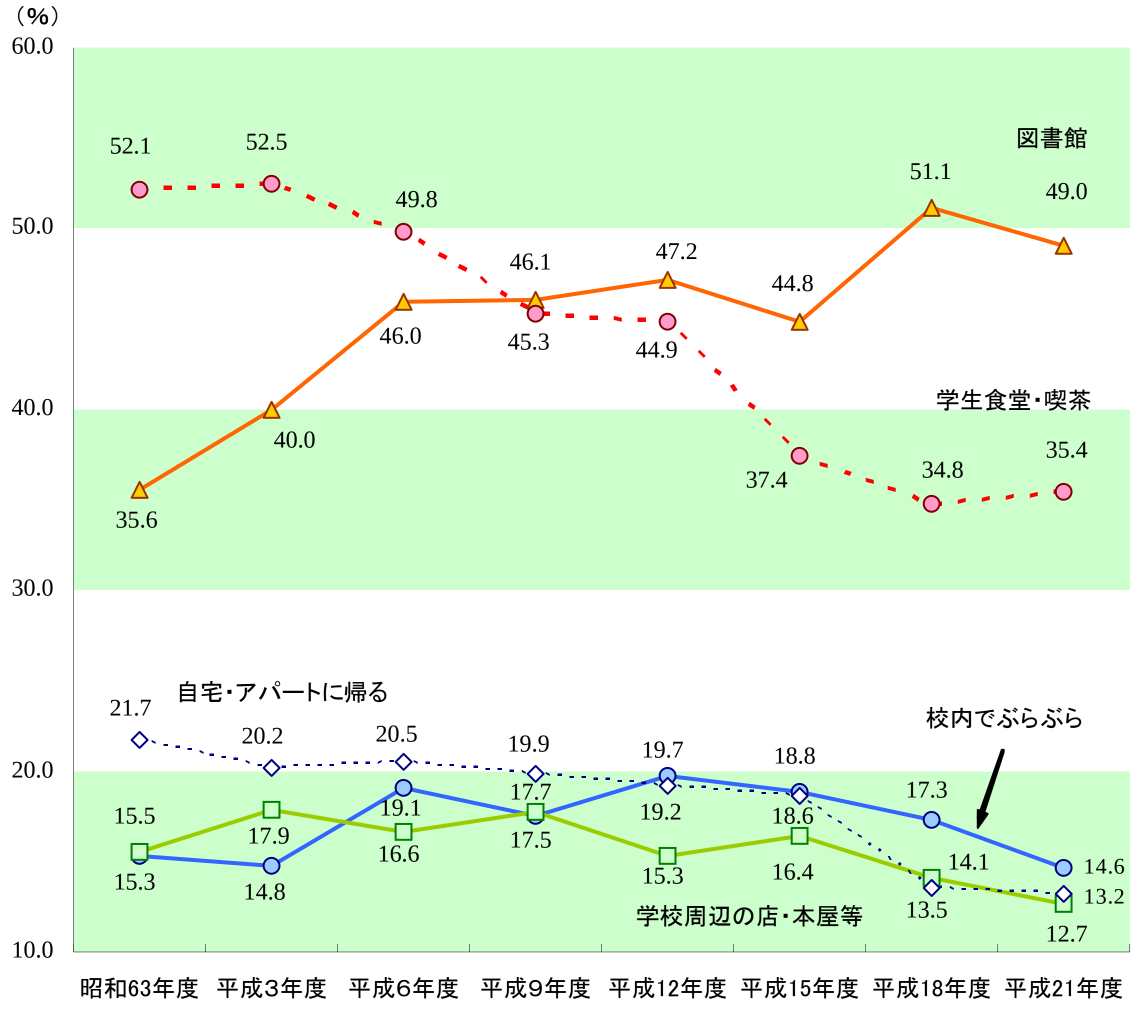
学内で空き時間ができた場合の過ごす場所を見ると，「図書館」が49.0%で最も高く，「学生食堂・喫茶」（35.4%）が続いています。近年図書館がリニューアルされた法学部と文理学部，本年度本調査後新校舎が完成する商学部では「図書館」が60%台となっており，学生に強く支持されていることがうかがえます。経済学部･生産工学部･工学部･松戸歯学部･薬学部は「学生食堂・喫茶」，歯学部では「空いた教室」と「学校周辺の喫茶店」がトップとなっています。



8. 空き時間を過ごす場所－今回ベスト5の経年変化

空き時間を「図書館」で過ごす学生が大幅に増加。
図書館の多機能化，キャンパスのリニューアルが学内での学生の行動に大きく影響。

学内で空き時間ができた場合の過ごす場所を経年変化で見ると，「図書館」が昭和63年度の35.6%から上昇傾向にあり，今回平成21年度の49.0%まで13.4ﾎﾟｲﾝﾄアップしています。法学部と文理学部では６年前の調査時より10ﾎﾟｲﾝﾄ以上増加しており，その間に実施された図書館のリニューアルの効果が顕著に表われています。各学部とも図書館は重要視されており，蔵書数の充実，ＩＴ技術の利用による全学統一検索・閲覧システムなどの導入，一部でのラウンジコーナーの設置など多機能化が進展してきたことによって学生の活用度が増していることがわかります。

一方，「学生食堂・喫茶」は前回までの18年間で17.3ﾎﾟｲﾝﾄも減少していましたが，３年前の調査時よりわずかですが増加に転じています。薬学部で学生ホールやインターネットも併設した学生食堂が完成し71.6%と前回の調査時より35.4ﾎﾟｲﾝﾄもアップしており，アメニティーとして利用されています。新改築などの要素も学生の行動に影響をもたらしていることがうかがえます。

平成21年度ベスト5の経年変化